ハリポタ施設23年夏開業の練馬区、「魔法の街」で誘客へ

News 潜望展望

#地域総合 #東京 #関東

2023/3/7 5:00 [有料会員限定]

練馬区は施設周辺の街路灯などに公認フラッグを掲出した（写真は2月の記念式典の様子）

東京都練馬区が映画「ハリー・ポッター」のスタジオ施設の開業をテコに、区内の観光振興を図ろうとしている。商店主や地元大学はもちろん、施設の運営会社も巻き込んで魔法にちなんだ飲食メニューの開発や店舗の装飾を発案。としまえんがあった「遊園地の街」から「魔法の街」へとイメージ転換を目指している。

ロンドンに続いて世界で2カ所目となるスタジオ施設は、2020年8月に閉園したとしまえんの跡地に23年夏開業する。精緻に再現したスタジオセットをはじめ、実際に使用した小道具や衣装の展示などを通じて、ファンは映画の名シーンを追体験できる。

練馬の施設は事前予約制で定員は明らかにされていないが、12年に開業したロンドンの施設はこれまでに1700万人以上が訪れた。それだけに、練馬区の前川燿男区長は「練馬を全国、いや世界にアピールする起爆剤になる」と力を込める。

区は22年春、商工観光課に有志の若手職員20人ほどが加わったプロジェクトチームを立ち上げ、街おこしのアイデアを練ってきた。実現した企画の一つが、周辺商店街の街路灯や練馬駅北口のペデストリアンデッキ（空中回廊）などに掲げられたワーナー・ブラザース公認の垂れ幕だ。

劇中で何度も登場する魔法学校の大広間が描かれたもので、2月末から500枚を設置した。区がワーナーに設置を提案したところ、「地域貢献の一環としてデザインを無償提供してもらった」（区商工観光課）という。

区内の名物商店主を魔法使いに見立てたカードを作成した

ほかにも、魔法にちなんだスイーツやカクテルを近隣の飲食店13店舗に考案してもらった。パン屋や呉服店、ワイナリーなど区内の名物商店主10人を魔法使いに見立てたオリジナルカードも作成。自由な発想で「魔法の街」のイメージ作りに取り組んできた。

志村電機珈琲焙煎所はラズベリーソースを血に見立てたフラッペを考案した

今後は地元の日本大学芸術学部の協力を得て、店舗の外壁にフォトスポットとなるパネルも飾っていくという。ハリポタのスタジオ施設は3〜4時間ほどで回れる規模のため、帰りに周辺の飲食店などに立ち寄ってもらおうと知恵を絞る。

かつてのとしまえんは夏のプールが人気で、ピーク時は年間400万人もの入園者を集めた。すし店を営む豊島園商店会の沢田豊彦会長は「遊園地で遊んだ後に食べに来るお客さんも多かった」と振り返る。閉園後は人通りもめっきり減っていたという。

集客力のあるハリポタ施設の開業は周辺商店街にとって大きなチャンスだが、外資系の運営会社と直接接点を持つのは難しい。志村電機珈琲焙煎所の志村大次郎社長は「区が間に入ってくれたから、魔法という切り口の街おこしが動き出した」と話す。今後は魔法メニューの第2弾や提供店舗のマップ作成などに取り組んでいくという。

西武鉄道も施設の玄関口にあたる豊島園駅をハリポタ風に改装する工事を進めるなど、開業への期待感は高まっている。国内外から集まるハリポタファンを区内観光に誘えるか。試されるのはこれからだ。（上月直之）

としまえん跡地、過半は公園に

ハリポタ施設を含むとしまえん跡地一帯は住宅街に位置し、その広さは27万平方メートルに及ぶ。東京都は震災時の避難先など防災上重要な拠点と位置づけ、全体を「練馬城址公園」として整備する計画を公表している。

ハリポタ施設の敷地9万平方メートルを除いた土地については、まず2023年5月に一部を公園として開園し、2029年までに段階的に整備を進める。

施設の底地は開業から30年間の定期借地契約の終了後、地権者の西武鉄道から土地を取得して公園整備に着手する。公園全体が完成するのは最短で50年代となる見通しだ。